

第 119 回番組審議会議事録

(株) 中国コミュニケーションネットワーク

- 開催日時 2024 年 6 月 13 日 (木) 午前 11 時
- 開催場所 中国経済クラブ (中国新聞社 8 階)
- 出席者

① 委員側 7 人

木谷 健 (比治山学園理事長)
牛来 千鶴 (ソアラサービス代表取締役社長)
中川 圭 (乳がん患者友の会きらら理事長)
中川 元慧 (浄土真宗本願寺派善正寺住職)
向井 良 (弁護士)
吉田 朋子 (和奏光夜実行委員会代表)
道面 雅量 (中国新聞社文化担当部長)

② 会社側 2 人

社長兼放送局長 小見山 文男
制作担当 渡邊 康美

■ 議題

- ・ 開会あいさつ
- ・ 番組試聴「太田川河川事務所の緊急割込放送」
- ・ ご感想・ご意見
- ・ 訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告
- ・ 質疑応答、その他

◇ 「太田川河川事務所の緊急割込放送」(2024 年 4 月 3 日放送)

大雨の際、高瀬堰(広島市安佐南区)の放流を知らせる緊急割込放送。FMちゅーピーと国土交通省の太田川河川事務所をつなぐ専用の電話回線を使用して放送に割り込むことが可能で、ほぼ開局(2000 年 5 月)当時から続けています。本番に備え、毎週水曜日午前 10 時 15 分から 3 分間、同事務所の職員が太田川に関するお知らせなどを割込放送しています。

<番組に対する委員の意見・感想>

- ・ 地域の防災情報を伝えるだけでなく、注意喚起が大切だ。緊急時、現地の河川ではサイレンは聞こえるが、その後に放送される注意情報は雨音などで聞き取りづらい。リアルタイムに割り込め、確実に情報が提供できるラジオの割込み放送システムは心強い。河川事務所のアナウンスも上手く、聞きやすい。

- ・ 日頃から訓練は大事。訓練の積み重ねが、緊急時に落ち着いて放送ができることにつながり、聞く方にも内容がクリアに伝わる。具体的な水位の数字などが入っていて参考になる。
 - ・ 割込み放送は、県域放送局ではできないと聞く。海拔2メートルの寺町在住だが、海の津波情報より高瀬堰の放水情報の方が切実。最近は洪水に対する地域住民の意識は薄いので、日ごろの啓発活動は重要だ。
 - ・ 川の町の広島にとって、河川情報は必要不可欠。割り込み放送を初めて知ったが、地域密着のコミュニティーFMならではの役割であり、今後も続けるべき取り組みと思う。
 - ・ 「好きです太田川」という短時間の放送を毎日流しており、防災意識の向上につながる。定期的な放送は、河川の事を学ぶいい機会になっている。
 - ・ テレビなら情報をテロップで流せるが、ラジオは無理。緊急割込み放送は、ラジオならではの特性だろう。毎週のテスト放送でシステムの稼働を確認し、発生に備えているのは感心だ。今後も、市民生活に関わる重要情報をいち早く届ける活動を続けてほしい。
- ◇ 訂正や苦情の報告と前回以降の業務報告
- ・ 訂正やリスナーから番組に関する苦情はありませんでした。
 - ・ ひろしまフラワーフェスティバル(5月3～5日)で、「ポップステージ」(白神社前)の公開放送を3日間実施しました。

以上